2023年度学校関係者評価報告

1. 日　時　　2024年3月8日（金）　14時～16時
2. 場　所　　愛仁会看護助産専門学校　2階　会議室
3. 出席者

評価委員：5名

（業界関係者）	八田　武志（名古屋大学・関西福祉科学大学　学長）
（業界関係者）	松原　正明（愛仁会本部　常務理事・局長）
（業界関係者）	増山　路子（愛仁会本部　看護担当特任理事）
（学校運営専門家）	水口　正子（明石医療センター附属看護専門学校　副学校長）
（卒業生）	池上　梓（愛仁会看護助産専門学校同窓会　前会長）

学校出席者：11名

清水　富男	愛仁会看護助産専門学校　学校長
藤尾　泰子	愛仁会看護助産専門学校　副学校長
増本　綾子	愛仁会看護助産専門学校　看護学科　教育主事
小林　理絵	愛仁会看護助産専門学校　看護学科　教育主事
大石　有香	愛仁会看護助産専門学校　助産学科　教育主事
長澤　亜由美	愛仁会看護助産専門学校　看護学科　実習調整者
清水　弘子	愛仁会看護助産専門学校　看護学科　実習調整者
長嶺　洋子	愛仁会看護助産専門学校　看護学科　学科調整者
西山　玲子	愛仁会看護助産専門学校　看護学科　学科調整者
木田　尚樹	愛仁会看護助産専門学校　事務部長
川口　璃子	愛仁会看護助産専門学校　事務職員（書記）

4. 評価概要

2023 年度学校関係者評価資料に基づく書類審査

評価項目については、厚労省の看護師養成所の自己評価指針の基準に基づき以下のとおり実施した。

Ⅰ　教育理念・目的・育成人材像
Ⅱ　教育目標
Ⅲ　教育課程経営
Ⅳ　教授・学習・評価過程
Ⅴ　経営・管理過程
Ⅵ　入学
Ⅶ　卒業・就業・進学
Ⅷ　地域社会/国際交流
Ⅸ　研究

5. 評価結果

評価基準（4：十分満たしている、3：満たしている、2：改善の余地がある、1：改善すべきである）に基づき、別紙の通り評価を行った。

6. 今後の取り組み

各評価委員から貴重なご意見を頂き、今後も、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教育水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んで参ります。　　以上

2023年度分 評価結果

	自己評価	学校関係者評価
評価基準	3:十分満たしている 2:満たしている 1:改善の余地がある 0:改善すべきである	4:十分満たしている 3:満たしている 2:改善の余地がある 1:改善すべきである
Ⅰ教育理念・教育目的	2．8	3．7
	・教育理念・教育目的を明確に明示している。	・評価基準に基づいて評価されている。
Ⅱ教育目標	2．7	3．7
	・新カリキュラムの稼働 2 年目となり、それぞれの学科のディプロマポリシーに近づいているかなど評価することで、教育の改善となり、教育活動全般の指針を示すことができている。	・評価基準に基づいて評価されている。
Ⅲ教育課程経営	2．5	3．5
	・学生からの授業評価や講師からの意見、学校関係者評価、教育課程編成委員会からの講評をもとに新カリキュラムへ整合性をもって各専門領域会議やカリキュラム会議、教員会議を行った。	・教員の仕事内容については評価が低くなっているので、今後に期待したい。
Ⅳ教授・学習・評価過程	2．5	3．7
	・設置主体である法人傘下の病院より、講義のみならず技術演習の協力支援を得られることが本校の特色である。また、実習受け入れ先の実習指導者である看護師と月に 1 回検討会議を開催し、年に1回研修会を企画するなど専門実践現場である病院と共同して教育実践に努めている。	・学生の授業評価の回収率が低いので高くなるように工夫をしてほしい。
Ⅴ経営・管理過程	2．5	3．3
	・新築移転後 10 年が経過し、今後も老朽化を見据えた修繕計画を立て財政管理を行う必要がある。 ・今年度より MEDIC MEDIA のカスタマーサクセスの利用を開始し、動画視聴や解剖生理、病態生理、看護学の学習ができるようになっている。	・卒業生の確保ができており、退学率が低いことから、教育を実践されていることがよくわかる。 ・引き続き学生確保、継続した学校運営をお願いしたい。
Ⅵ入学	2．4	3．6
	・受験生の減少がみられていることから、優秀な学生の確保を狙いとし、2024 年度入学試験から指定校推薦入試を取り入れた。	・優秀な学生の確保に、推薦入学制度の基準のさらなる検討などが望ましい。
Ⅶ卒業・就業・進学	2．1	3．2
	・愛仁会本部による就職セミナーやインターンシップの参加や、法人内の奨学金制度を設けていることなどが法人内の就職率の高さに繋がっている。	・専門学校教育の最も大切な目標である、国家資格試験の100％合格は賞賛に値する。学生確保にも有効な情報となるので卒業生の動向把握をお願いしたい。 ・教育目標をもう一度フィードバックし、次年度の活動へ活かしてもらえたら良い。
Ⅷ地域社会/国際交流	2．3	2．8
	・1 年次「地域・在宅看護概論」の授業において、地域での様々な取り組みに参加したのち、それぞれの活動内容を報告することで、人々の暮らし、地域のサポートシステム、人々と地域のつながりを理解することができた。 ・韓国の大学生（看護学科在籍）との学生交流の機会を設け、日本だけでなく外国の看護教育の現状を知ることができ、看護職という専門職を目指す過程にある者として国際的な視野を持つことにつながる機会になった。	・ドンア大学の学生の国際交流を行い、学生の自己学習につなげられたら良い。
Ⅸ研究	1．7	2．3
	・第 37 回日本助産学会学術集会 ポスター発表	・研究活動の評価は低いが、文献の活用や取組を評価してみてはどうか。
総評		・本会議の評価者メンバーについて、保護者の代表者を加えてもよいのではないか。 ・適切な学校教育を行っている。多くの学生が法人内に就職しており、今後とも継続した教育を行ってほしい。